

# 組付要領書及び部品表

## Takakita

### コンポキャスタ

日農工標準オートヒッチキット 0 L

CC-0 L

#### 適応機種

- BC3500 (D)
- BC3501 (D)
- CC3530 (D)
- CC3531 (D)



本製品を安全に、また正しくお使いいただくために  
必ず本取扱説明書をお読みください。  
お読みになった後も大切に保管してください。



株式会社 タカキタ

# はじめに

このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。

この取扱説明書は、**コンポキャスタ用日農工標準オートヒッチ**の組付要領について記載しております。組付前には必ず、この組付要領書をお読みの上、正しく組付けください。また、ご使用前にはブレンドキャスタ本体の取扱説明書を熟知するまでお読みの上、正しくお取扱いいただき最良の状態でご使用ください。

- お読みになったあとも必ず製品に近接して保存してください。
- 製品を貸与または譲渡される場合は、本体の『取扱説明書及び部品表』とこの『組付要領書及び部品表』を製品に添付して、お渡しください。
- この取扱説明書及び部品表を紛失または損傷された場合は、速やかにお買い上げの販売店または弊社にご注文ください。
- 本書は、**注意**として製品自体の損傷防止に関する留意事項を記載しております。
- なお、品質・性能あるいは安全性の向上のため、使用部品の変更を行うことがあります。その際には、お手元の製品と本書の内容が一致しない場合がございますので、あらかじめご了承ください。
- ご不明なことやお気付のことがございましたら、お買い上げの販売店または当社にご相談ください。

## ⚠ 警告サイン



印付きの下記マークは安全上、特に重要な項目ですので、よく読んで必ずお守りください。

### ⚠ 危険

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

### ⚠ 警告

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

### ⚠ 注意

その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

# 日農工標準オートヒッチの組付け

CC-OL

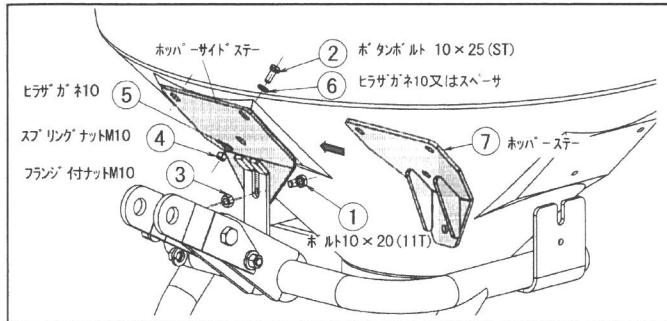
## 日農工標準オートヒッチ I・II用部品

◆日農工標準オートヒッチ I・II規格(OL形)をお持ちのお客様は、下記のブラケット類のオプション部品を組付けていただくと、オートヒッチで本機の着脱ができます。

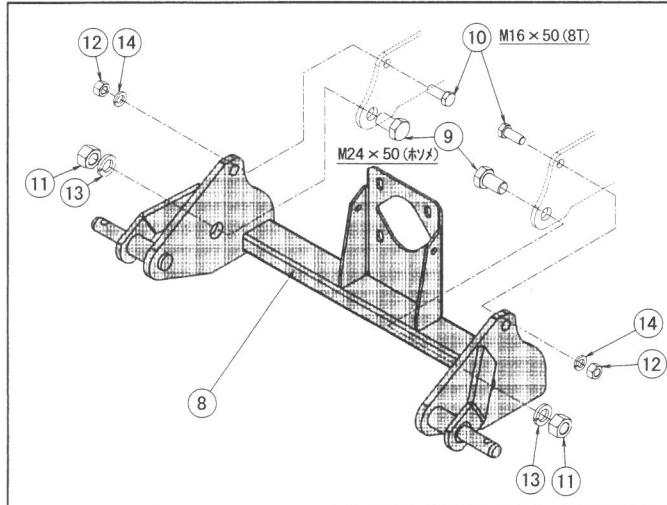
### ◆組付け手順

#### [1] フレーム関係の組付け

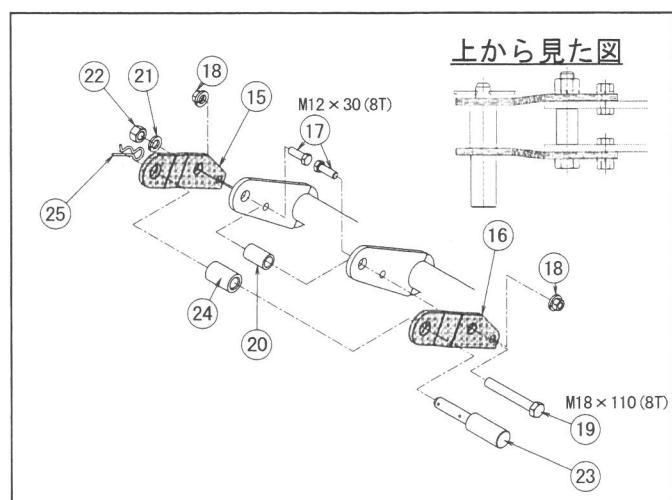
- (1) トップリンク上のホッパーサイドステー(1ヶ所)を取り外し、使用していた①②ボルト、③フランジツキナット、④スプリングナット、⑤ヒラザガネ、⑥ヒラザガネまたはスペーサーで⑦ホッパーステーを組付けてください。



- (2) ⑧ロワーリンクブラケットを本機フレーム側のブラケットの外側に⑨⑩ボルト、⑪⑫ナット、⑬⑭バネザガネで左右それぞれ2カ所ずつ組付けてください。



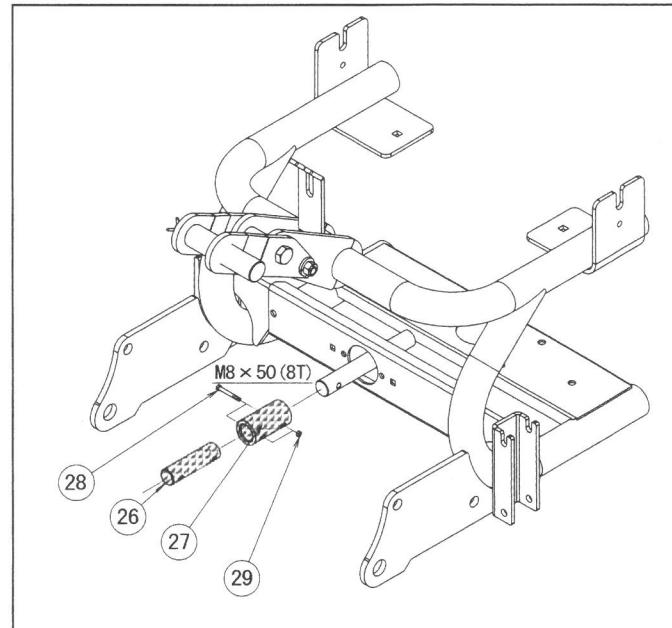
- (3) ⑯⑰トップリンクブラケット(右・左)を本体フレーム側のトップリンク部の外側に⑯ボルト⑰スプリングナット、⑲ボルト⑳カラー、㉑バネザガネ、㉒ナットで左右組付け、㉓ビンと㉔カラーを㉕アールピンで止めてください。



\*ボルトを固定する前に、㉕アールピンを先に取付けてからボルトを締めてください。

#### [2] 軸関係の組付け

- (1) ㉖中間シャフトを本機側の入力軸と㉗接続カラーで連結し、それぞれを㉘ボルト、㉙ナイロンナットで固定します。

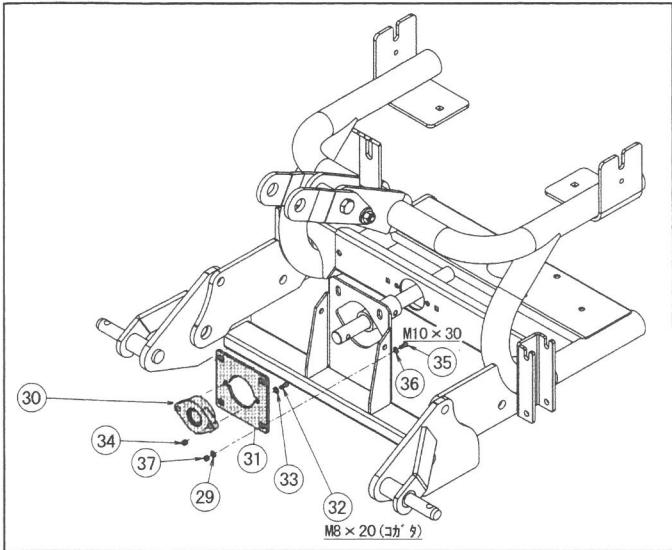


- (2) ㉚ベアリングを㉛ブラケットに、㉜ボルト、㉝ヒラザガネ、㉞スプリングナットで組付けた後、⑧ロワーリンクブラケットに㉟ボルト、㉞ヒラザガネ、㉞スプリングナットで仮組みしてください。

# 日農工標準オートヒッチの組付け

CC-OL

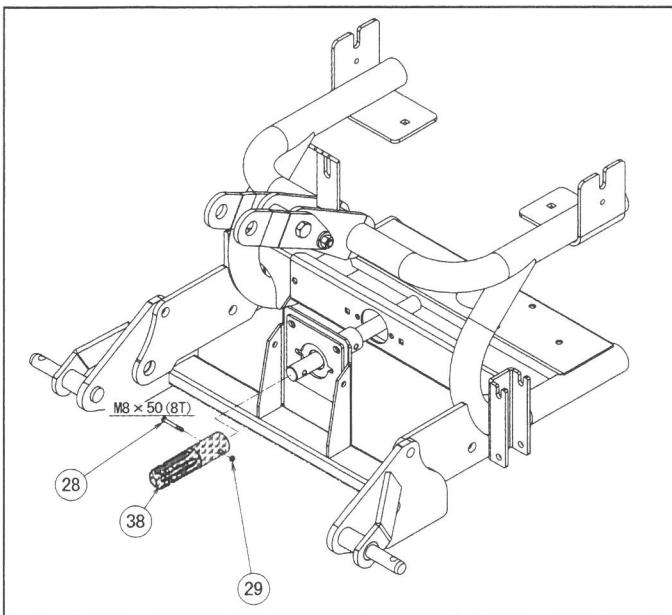
- (3) ②⑥中間シャフトと③⑰ベアリングの芯が合っていることを確認し、④⑪ブラケット固定の⑤⑯ボルト、⑦⑮ヒラザガネ、⑧⑯スプリングナットを締め付けてください。



## 注意

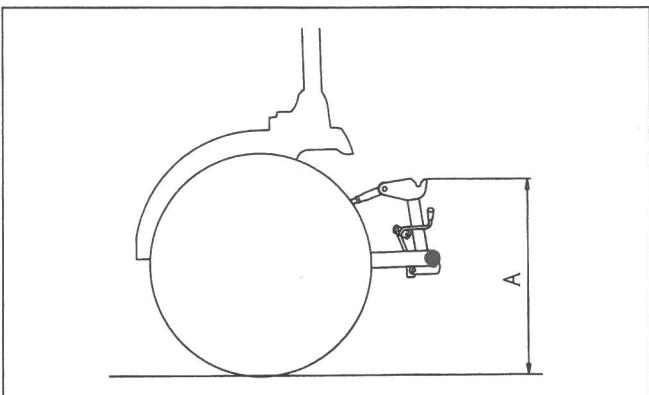
- ②⑥中間シャフトを④⑪ブラケットの③⑰ベアリングに組込む時は、②⑥中間シャフトがスムーズに回転するようにしてください。  
②⑥中間シャフトを無理に組付けると、軸折れ等の原因となります。

- (4) ⑨⑩スラインシャフトを②⑥中間シャフトへ⑪⑫ボルト、⑬⑭ナイロンナットで組付けてください。



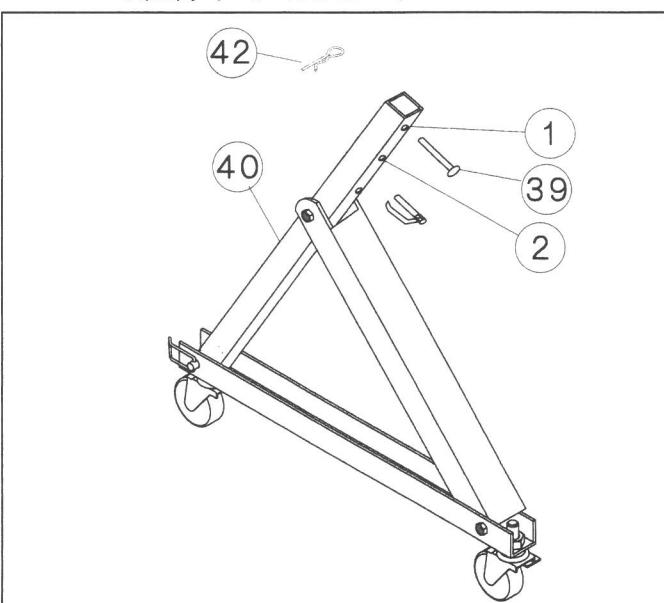
## [3] スタンドの取付け

スタンドの高さは、二段階に調整できます。トラクタに装着されているヒッチの最下げ時の地面からの高さAを測定していただき、下表を参照にスタンドの高さを決めてください。



Aの高さ	リベットピンの位置
820~930mm	①
820mm 以下	②

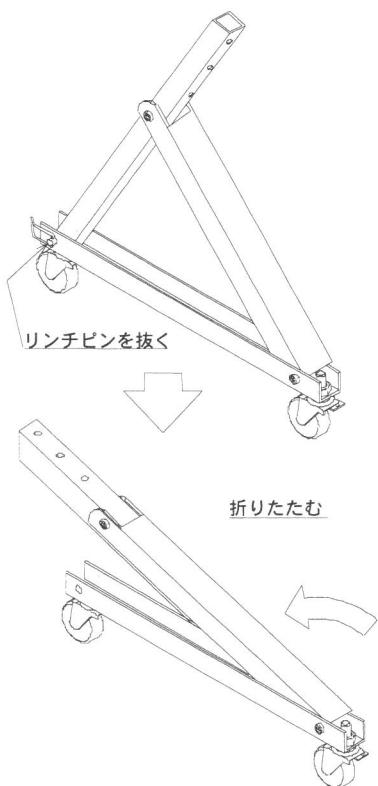
⑨のリベットピン(Φ10×65)を⑩スタンドの①穴または②穴に入れ、⑪アールピンで組付けてください。



## スタンドの格納

トラクタへ装着後、折り畳んで格納することができます。

- ・レンチピンを抜き、折り畳んでください。



#### [4] スタンドの組付け

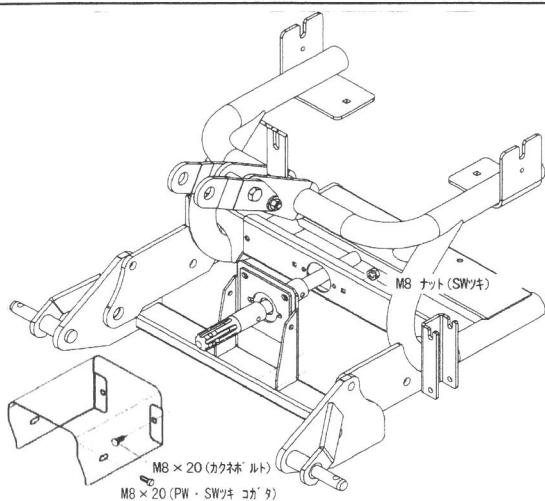
右図のように、リンチピンでスタンドを組付けてください。

#### [5] 仮ドッキング

スプラインシャフトを手で回し、カクハンアーム、スピナーナーがスムーズに回ることが確認できましたら、トラクタにドッキングしてください。

#### [6] カバーの組付け

最後にカバーを組付けてください。



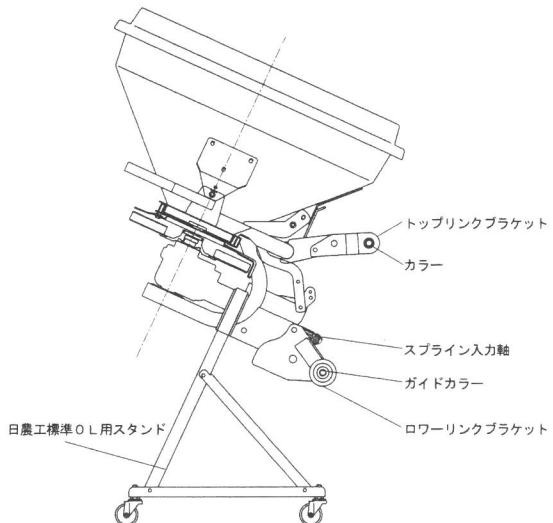
## ▲ 注意

使用前に各部の組付けに誤りがないか、ボルト・ナット等が確実に締付けられているか必ず確認してください。

### 注意

- 本機の装着後、トラクタのロワーリンクをゆっくり上げ、最大持ち上げ範囲まで各部が干渉しないことを確認してください。
- トラクタの3点リンクの持ち上げ規制装置で、上昇範囲を制限してご使用ください。

組み付け完成図(日農工標準オートヒッチ I・II)



### 作業時の注意

以下の点を怠るとPTO軸の折損の恐れがありますので注意してください。

- ヒッチを大きく上げたままでPTOを駆動させると、ジョイント角度が大きくなります。必ずPTO駆動をOFFにしてください。
- ヒッチのユニバーサルジョイントのジョイントチューブに固着や長さ不良(ドン突き)が無いことを確認してください。
- 作業機の姿勢が±5度以上傾斜している場合は、トップリンクの長さを再調整して、作業機の姿勢を水平より±5度以内になるようにしてください。